

2025(令和7)年度

教職課程

自己点検・評価報告書

獨協大学

2026(令和8)年 3 月

目 次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	4
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	4
	基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有	4
	基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫	7
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	10
	基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成	10
	基準項目2-2 教職へのキャリア支援	13
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	15
	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施	15
	基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携	17
III	総合評価	18
	大学としての全体評価	18
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	19
V	現況基礎データ一覧	20

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：獨協大学
- (2) 学部名：外国語学部、国際教養学部、経済学部、法学部
- (3) 所在地：埼玉県草加市学園町1-1
- (4) 学生数及び教員数

(令和8年2月24日現在)

獨協大学 教職課程認定学部・学科一覧

学部	学科	中学校	高等学校
外国語学部	ドイツ語学科	ドイツ語	ドイツ語
	英語学科	英語	英語
	フランス語学科	フランス語	フランス語
	交流文化学科	英語	英語
国際教養学部	言語文化学科	社会、英語	地理歴史、公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史、公民
	経営学科	社会	公民、情報
	国際環境経済学科	社会	公民
法学部	法律学科	社会	地理歴史、公民

学生数

学部	教職課程履修者数	学生数(学部全体)
外国語学部	332名	2,759名
国際教養学部	114名	739名
経済学部	150名	3,368名
法学部	85名	1,734名

教員数

学部	学科	取得できる免許状の種類	免許科目	本学の 専任教員数 2024年度 ※1	学科全体 科目担当	学部全体 科目担当
外国語 学部	ドイツ語学科	中学校教諭一種免許状	ドイツ語	8	51	190
		高等学校教諭一種免許状	ドイツ語	8		
	英語学科	中学校教諭一種免許状	英語	13	66	
		高等学校教諭一種免許状	英語	13		
	フランス語学科	中学校教諭一種免許状	フランス語	7	50	
		高等学校教諭一種免許状	フランス語	7		
	交流文化学科	中学校教諭一種免許状	英語	5	23	
		高等学校教諭一種免許状	英語	5		
国際 教養 学部	言語文化学科	中学校教諭一種免許状	社会	9	195	195
			英語	3		
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史	5		
			公民	4		
			英語	3		
経済 学部	経済学科	中学校教諭一種免許状	社会	12	72	172
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史	4		
			公民	8		
	経営学科	中学校教諭一種免許状	社会	6	80	
		高等学校教諭一種免許状	公民	6		
			情報	5		
	国際環境 経済学科	中学校教諭一種免許状	社会	7	20	
		高等学校教諭一種免許状	公民	5		
法学部	法律学科	中学校教諭一種免許状	社会	8	29	66
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史	3		
			公民	5		
	国際関係法学科	—	—	—	20	
	総合政策学科	—	—	—	17	

※1 各教科の指導法は除く。

2 特色

教職課程ガイダンスを毎年春学期の履修登録前の時期に、学年毎に実施し、履修指導を行っている。さらに、介護等体験に関するガイダンスは2年生～3年生に対して実施し、教育実習については、4年生に対してガイダンスに加え、直前指導として教育実習オリエンテーションを実施している。

特に、2025年度の教育実習オリエンテーションでは、①教科別指導法の講義で、教員採用試験合格者による教育実習前の準備・心構えなどの発表、②学校現場でのICT活用の講義でICT教育の実践例を学ぶ学習機会の確保、③学校安全の講義で、消防署の方を招いてAED講習を実施するなど、毎年、オリエンテーション内容の見直しを行っている。

履修指導及び各種相談については、教職・司書相談室を開室し、教職担当教員が月曜日から木曜日の昼時間帯に在室し、教育実習に臨む学生の「教育実習事前指導」など、あらゆる相談に対応することで、きめ細かい指導を実現している。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 『履修の手引(2025年度版)』
- ・ 獨協大学.“学生データ(入学者の数、収容定員、在学生数、卒業・修了生数、進学および就職等の状況)”

<https://www.dokkyo.ac.jp/about/openinfo/activity2/165.html>

- ・ 獨協大学.“教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること(施行規則第22条の6第2号)”

<https://www.dokkyo.ac.jp/about/openinfo/teachertraining/course/>

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域Ⅰ 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目Ⅰ-Ⅰ 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

本学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念に基づき、総合的な思考力と判断力を養い、人間性に優れた教養人として「深く豊かな情操と教養を背景とする、確実な知識と熟練した技能」を有する教員の育成を目指している。教員養成の目標を達成するため、各段階における到達目標を下記のとおり設定している。

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	春学期	教職 教職の意義や教職に就く心構えを学ぶとともに、教職に関する基礎的・基本的な知識を修得する。 教科 中学校、高等学校における各教科の学習の上に立って、各教科の内容について包括的に理解し、各学問分野の基礎的・基本的知識と見方・考え方を修得する。
	秋学期	教職 教職に関する基礎的理論、教育哲学、教育史、教育法について幅広く知識を修得する。また、児童生徒の発達段階など教育心理学についての基礎的な知識を理解し、修得する。 教科 前期にひき続き中学校、高等学校における各教科の学習の上に立って、各教科の内容について包括的に理解し、各学問分野の基礎的・基本的知識と見方・考え方を修得する。
2 年次	春学期	教職 教育制度や教育課程についての意義役割、法的位置づけなどを学び、理解する。 教科 1 年次に引き続き、各教科の内容についての包括的理解を図ることに加え、専門分野について、より深く研究するための基礎的な知識、技能を修得する。

	秋学期	教職 生徒指導、学校カウンセリング、教育方法学等より実践的な内容について、理解する。 教科 前期に引き続き、専門分野についてより深く研究するための基礎的な知識、技能を修得する。
3 年次	春学期	教職 教科教育についての基礎的な理論を理解する。また、介護体験等を通じ教育活動全体への責任感を高める。 教科 専門分野についてのより深い研究を始めることによって、学問を通じた見方、考え方の修得を図る。
	秋学期	教職 教科教育についての実践的研究を行い、教科教育の本質的な理解を深める。前期と同様、介護体験等を通じ教育活動全体への責任感を高める。 教科 専門分野についてのより深い研究を行うことによって、学問を通じた見方、考え方の修得を図る。また関連分野についての学習を深め、視野を拡大する。
4 年次	春学期	教職 教職課程において最も重要な教育実習に参加し、教育の実態を体験的に理解するとともに、教職に対する責任を自覚し、意欲を高める。 教科 専門分野について卒業論文の準備をすることで、学問の意義、役割を学ぶ。また、関連分野についても学習を深め、視野を拡大する。
	秋学期	教職 教職課程の最終段階として、自ら教職に関する資質を再検討し、よき教員になるための方策について具体例を理解する。 教科 学問の取りまとめとして卒業論文を作成し、現代社会の諸課題について追及する一つの方法を修得する。

〔優れた取り組み〕

外国語学部は、教職課程を履修する学生数が英語学科を中心として最も多い。学科の必修科目や、コースによって必要となる必修・選択必修科目を「教科に関する専門的事項」の必修・選択必修科目に設定しているため、比較的ほかの学部と比べて履修しやすいように配慮されている。

国際教養学部は、卒業要件の科目の分野が幅広いことから、社会科系の免許と英語の免許の取得が可能なのが特長である。また、「教育の基礎的理解に関する科目」等が卒業要件としても履修可能なため、教職課程履修のハードルが低く、また履修しやすいように配慮されている。

経済学部は、社会・地理歴史・公民の「教科に関する専門的事項」において多様な科目を設定しており、教科指導において高度な専門性を養うことができる。経営学科は情報の免許が取得可能である。

法学部は、法律学科が唯一教職課程の履修が可能であり、法学の観点から社会・地理歴史・公民の専門性を高めることができ、法的思考を持った教員を養成することが期待されている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程に在籍はしているものの、途中で教職課程を諦めてしまう2年生や3年生に対するフォローをどのように実施していくかなど、免許及び資格課程運営委員会で引き続き議論・検討を行い、当該状況を克服していくことが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 『履修の手引(2025年度版)』
- ・ 獨協大学. “教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること(施行規則第22条の6第1号)”

<https://www.dokkyo.ac.jp/about/openinfo/teachertraining/plan.html>

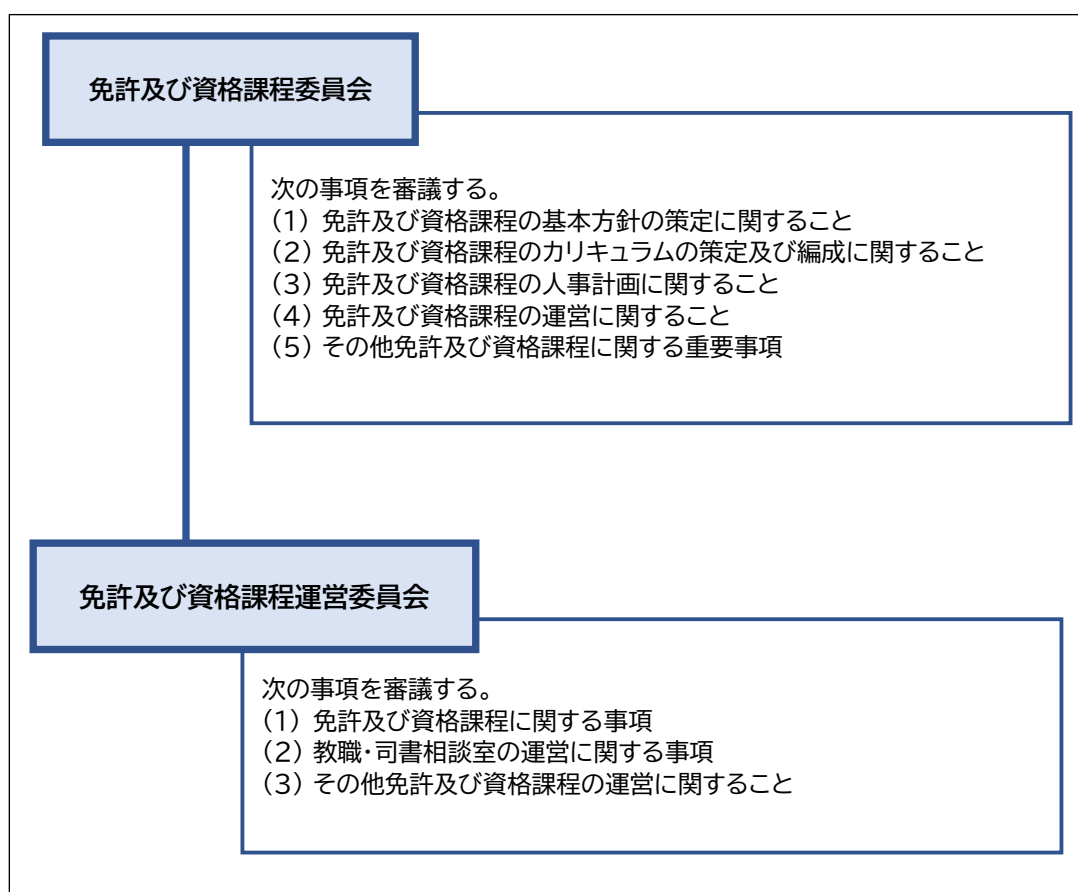
基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

教職課程の運営に関して全学組織（免許及び資格課程委員会）と学部学科の教職課程担当者（免許及び資格課程運営委員会）間で適切な役割分担を担っている。

また、教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、免許及び資格課程運営委員会が中心となり、研究者教員、実務家教員、事務職員との協同体制を構築している。

組織図



免許及び資格課程委員会は、学長が委員長となり、委員には、副学長 2 名、学部長 4 名、学科長 11 名、研究科委員長 3 名、免許及び資格課程運営委員長が、また、職員からは事務局長が委員となり、組織されている。当該委員会は、年 2 回開催されるが、カリキュラム改正等の重要事項がある際には臨時開催する。これにより、

各学部の意見を迅速に交換しあい、委員会の決定事項を確実に学部へ通知することができている。

免許及び資格課程運営委員会は、各学部・学科から選出された委員 7 名と、教職課程専門として 2 名、司書課程専門として 2 名が、また、職員からは教務課長が委員となり組織されている。当該委員会では、年 6 回程度、定期的に開催し、教育実習の実施状況やトラブル対応、採用試験の結果報告など、細やかに対応している。

教職免許及び司書教諭・司書課程を履修する学生の様々な相談に対応するために「教職・司書相談室」を設置している。文部科学省検定済み教科書、採用試験参考書、専門雑誌、新聞などの資料を揃え、教員採用情報やボランティアの募集等、教職課程を履修する学生向けに情報を集約している。

〔優れた取り組み〕

教職・司書相談室では、日替わりで教員と相談できる時間帯を設定し、学生が相談しやすい環境を整えている。中学校、高等学校の教壇経験のみならず校長経験のある教員や、教職課程科目専門の教員が担当することで、幅広い相談の対応が可能となっている。なお、2025 年度から、6 年ぶりに介護等体験を再開したことに伴い、介護等体験実施前に、教員による学生面談を行った。学生面談では、特別支援学校・社会福祉施設での介護等体験にあたってのマナーや身だしなみ等のチェックを行い、介護等体験前の準備を整えた。

〔改善の方向性・課題〕

4 年次に実施する教育実習期間が、教員採用試験や民間企業の就職活動時期と重なるため、教職課程の履修自体を断念せざるを得ない学生も存在することから、他大学の実施例も参考にしながら、教育実習の早期化や分散化などの検討を行ったが、時期尚早として、学内での賛同を得ることはできなかった。文部科学省の法令改正の動向にも注視していきながら、引き続き検討を進めていく。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 免許及び資格課程委員会規程
- ・ 免許及び資格課程運営委員会規程
- ・ 『履修の手引（2025年度版）』

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な人材(学生)の確保・育成

〔現状・優れた取り組み〕

教職課程履修者には、1年生から「履修カルテ」を配付し、各自で振り返りと次年度の目標を立てるよう、毎年ガイダンスで周知している。また、4年生で受講する「教職実践演習(中・高)」の中で履修カルテを用いて最終的な達成状況を教員と学生間で確認している。

教育実習については、本学の教育実習生としてふさわしい学生を送り出すため、下記のとおり教育実習要件を定めている。

教育実習要件

	実習要件科目		合計単位数
全 学 科 共 通	教育の 基礎的理解に 関する科目等	①教育原論 ②教職論 ③教育心理学 ④特別支援教育論 ⑤教育課程論 ⑥道德教育の理論と実践 ⑦特別活動論 ⑧生徒指導と進路指導 ⑨教育実習指導	【中学で実習】 18 単位 【高校で実習】 ⑥道德教育の理論と実 践を 除く 16 単位
実 習 教 科	教科に関する 専門的事項	ドイツ語、英語、フランス語、 社会、地理歴史	16 単位以上
		公民、情報	12 単位以上
	各教科の 指導法	中 ドイツ語、英語、フランス語、社会	<u>必修・選択必修のうち 4 単位※</u>
		高 ドイツ語、フランス語、公民、情報	必修のうち 2 単位
		英語、地理歴史	4 単位

※うち、2 単位は必修科目とする。選択必修科目のみでの 4 単位は不可。

実習教科が「英語」の学生には、上記に加え英語資格要件も求めている。

英語資格要件

在籍学科	要件＜英語資格試験＞	証明書 提出期限
英語学科 交流文化学科 言語文化学科	TOEIC®LISTENING AND READING TEST ： 700 点以上(学内実施 IP 可) TOEFL®TEST ： 68 点以上(iBT)、 520 点以上(学内実施 ITP 可) IELTS ： 5.5 以上 英 検 ： 準 1 級以上	教育実習実施前 年度の 3 月末日 まで

4 年生になると、教育実習を行う各学生に「教育実習指導教員」が必ずつき、教育実習校との連絡や教育実習の最終的な成績評価を担当している。教育実習校との連携を円滑にするために、可能な限り学生のことをよく把握している教員(主に「演習」担当教員)が担当する。教育実習指導教員は、免許及び資格課程運営委員会で決定した指定地域での教育実習の場合には、必ず訪問指導に行き実習中の学生の様子を確認している。

また、本学には、従前から英語教育に携わる方及び英語教育に関心のある方を対象に、講演会やワークショップを行うことで、より良い英語教育を目指す獨協大学英語教育研究会 (DUETA) があり、中高の英語教員となった卒業生も多数メンバーとなっている。彼らが中心となり、全体講義の中で先進的な授業方法を提示したり、在学生のきめ細かな指導にあたったりすることで、在学生の中から新たな英語教員が育成されていくという好循環につながっている。特に、2024 年度から初めて、教職課程を修了し、教育現場で活躍している卒業生との繋がりを持つことを目的に、当該卒業生の個人情報の収集を開始して、教育現場の中核で働いている卒業生同志の交流とともに、教職課程を履修している在学生との意見交換を目的とした「教職課程設置 60 周年記念イベント」を 2025 年 11 月 15 日 (土) に開催した。

記念イベント当日は、現職教員の OB・OG と在学生との交流を図ることができて、教職を担うべき適切な人材育成の機会を確保することができた。

〔改善の方向性・課題〕

他大学で実施している「学校体験活動」を本学でもボランティア活動として行えるように、教職課程ガイダンスの中で案内・説明を行い、募集をかけたが、参加者は集まらず、実施までには至らなかった。教職を担うべき適切な人材育成の観点からも、「学校体験活動」の実施は必要だと考えているが、教職課程を履修している学生が気軽に参加できる体制を整えていくことや、「学校体験活動」を教職課程中の単位として位置づけることを検討することなどが今後の課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 『履修の手引（2025年度版）』

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

教務課免許課程係では、学生の教職課程の単位修得状況の確認や履修指導、教育実習中の事務手続きの確認を行っている。学生への指導上、必要と判断した場合には、免許及び資格課程運営委員長に繋ぎ、適宜学生面談を行っている。

キャリアセンター事務課では、教員志望者を対象に、教職教養を中心とした教員採用試験対策講座を無償で実施している。また、教員採用試験推薦枠の調整や選考を担当している。また、教員採用試験対策について、3・4年生にアンケートをとり、実施方法の希望や実際に利用した感想を聞いている。

〔優れた取り組み〕

教員採用試験の時期には直前対策講座を開講し、教育委員会所属経験のある教員が講師を担当し、採用者目線での面接指導・模擬授業対策を行っている。基本的には4年生が中心となるが、3年生も参加可能なので早い段階から採用試験の心がまえを意識できる機会となっている。特に、2次対策の直前対策講座は、例年1回の開催としていたが、学生からの希望も多かったため、2025年度は7月12日（土）と7月31日（木）の2回に分けて行い、きめ細かな対策を行った。

教育実習の事前事後指導科目においては、3年生と4年生を一度に集め、外部講師の講義を受ける「全体講義」を実施している。実際に教壇に立っている教員の話を聞くことで、3年生には教育実習を、4年生には卒業後教員として働くことに意識が向くように例年秋学期に実施している。なお、教員免許を取得しても一般企業に就職する学生も少なくないことから、2025年度の全体講義では、民間企業に勤める事と教職に就くことの違いなどを、給与や待遇の側面からも多面的に学習する講義を設定することで、教職の魅力を教職課程を履修している学生に再確認させた。

〔改善の方向性・課題〕

引き続き、教員採用試験（1次試験）で不合格となった学生や2次試験で不合格となった学生の分析を行い、その分析に基づいた対策講座の内容の検討を関係者間で進めていくことが今後の課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 『履修の手引（2025年度版）』

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

教職課程科目のうち、「教育の基礎的理解に関する科目等」については、国際教養学部卒業要件科目でもあることから、時間割編成は国際教養学部が担当している。ただし、変更が生じた場合には、教職課程担当教員から選出された時間割編成委員が逐次確認し、学生の履修に支障が生じないように調整している。カリキュラム改正の際には、免許及び資格課程委員会において方針が決定し、免許及び資格課程運営委員会において共有され、委員を通じて各学部学科に周知することで確実な連携体制を構築している。

履修登録については、各学部学科には履修登録上限単位数の設定はあるが、「教育の基礎的理解に関する科目」等は卒業要件に含まれない科目とし、CAP 外で履修することとなっている（なお、国際教養学部で卒業要件科目となる教職課程科目はCAP 内での履修となる）。

教務課免許課程係では、教職課程の履修登録について、全学生配付の『履修の手引』にカリキュラムについて詳細に記載し、新学期には学年毎にガイダンスを実施することで、履修登録上特に気を付けなければならない情報も周知徹底を図っている。また、よくある質問集やチャットボットを用意し、学生が窓口まで相談に来ずとも各自で履修計画できるように情報提供を行っている。

留学・休学をした場合も教職課程を継続できるよう、留学・休学希望者はあらかじめ教務課免許課程係まで相談に来るよう周知を図っている。相談者には個別の相談シートを作成し、教職課程に関する各種手続きの時期や、いつまでに何の単位を修得すべきか等、現在から卒業までの流れを学生と確認し、情報共有事項を詳細にわたり記録を残している。

〔優れた取り組み〕

「教育の基礎的理解に関する科目」等は、ほとんどの科目に定員を設けていないが、履修開始学年が1年生の科目と、教育実習要件に関わる科目については原則3コマ開講することで、履修者過多にならないように調整している。

「教科に関する専門的事項」は教職課程認定審査基準に則り、基本的に各学部の卒業要件科目であるが、そのうち「地理歴史」における「人文地理学・自然地理学」「地誌」必修科目を、教職課程履修者専用の科目として開講している。このことにより、「社会」「地理歴史」の取得が可能な言語文化学科、経済学科、法律学科において、各学科での主専攻が異なるものの、高い専門性を維持することが可能となっている。

「各教科の指導法」は、英語の教科において外国語学部の履修者が多いため、模擬授業を中心とする「英語科教科教育法Ⅱ」「英語科教科教育法Ⅲ」の定員は、20名前後に設定できるよう開講コマ数を調整している。

「大学が独自に設定する科目」は、「介護ボランティアの理論と実践」を開設し、介護等体験の事前学修としての役割を担っている。

〔改善の方向性・課題〕

本学では、教育実習・介護等体験期間中における授業欠席は公認欠席ではなく、各授業担当教員に委ねられているため、教職課程を履修している学生の中で、全学共通授業科目を4年次に初めて履修する場合に、各授業担当教員と欠席の取扱いに関して苦慮している学生が発生している。早い段階でそれらの科目を極力履修するように、ガイダンス等でのアナウンスのやり方も含めて検討していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 『履修の手引(2025年度版)』

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

教務課免許課程係では、学校ボランティア等の募集情報を「教職・司書相談室」や大学ポータルサイト上に掲示し、学生の参加を促している。

〔優れた取り組み〕

草加市教育委員会との「草加市教育委員会と獨協大学の教育支援連携協定」に基づき、草加市内の中学生を対象に英語技能検定試験の直前対策講座を毎年開催し、教職課程履修者が直接中学生に指導する機会を設けている。指導力向上だけでなく、本学の英語科指導法担当の教員がアシストしながらどのように中学生に教えるかを学生に考えさせることで、教員としてのリーダーシップ向上も期待できる。

〔改善の方向性・課題〕

草加市教育委員会や草加市内の中学校とも連携をしながら、教職課程を履修している学生が教育実習の前の段階で、学校現場でのボランティア活動を体験できるような体制作りを進めるとともに、当該ボランティア活動や、草加市内の中学生を対象にした英語技能検定試験の直前対策講座などのボランティア活動などを、「学校体験活動」として、教職課程内の科目として位置づけられるように検討していくことが今後の課題である。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 「草加市教育委員会と獨協大学の教育支援連携協定書」
- ・ 草加市教育委員会.“草加市英語検定試験学習会”.草加市ホームページ.

<https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s2110/040/010/010/PAGE0000000000074923.html>

Ⅲ．総合評価

大学としての全体評価

獨協大学では、教職課程に関わる所定の科目の単位を修得することにより、中学校及び高等学校の教員免許が取得できる。教職課程が設置されてから 60 年間、多くの教員を輩出してきた。本学では長きにわたり、学生が有意義な学修を進め、希望する教職に就くために、様々な支援を行ってきた。本年度は節目の年にもあたり、それらの支援・活動がよりいっそう活発になった。

本学の教職課程の特徴は、「卒業生とのつながり」と本学が所在する「草加市とのつながり」の二つを生かしているところにある。前者については、「教員採用試験対策講座」「全体講義」「教育実習オリエンテーション」などの充実した特別授業において、本学を卒業し教職に就いている現職教員が講師を務め、在学生の指導に当たって下さる。学生たちは、現職教員の現実的な職務・生活について、多くを学ぶことができている。

後者については、草加市教育委員会との教育連携協定を大いに活用している。協定に基づき、同委員会が主催する数々の児童生徒向けイベントに、本学学生たちは TA として参加することができる（たとえば「草加市英語検定試験学習会」）。大学在学中に、小学生・中学生の指導を経験できることは、教職に就くことへの意欲を高め、小中高の連携の観点からも、大変有意義な学習の機会になっている。

教職課程履修の魅力を多くの学生が理解し、教職課程の履修者が増えること、また、履修を開始した学生が教員免許取得に至るまでのモチベーションを維持できるよう、支援体制をいっそう強化していく計画を、来年度以降も実現していく予定である。

獨協大学

免許及び資格課程運営委員長

羽山 恵

Ⅳ 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

2025 年 12 月 17 日（水） 素案審議（第 5 回免許及び資格課程運営委員会）

2026 年 2 月 24 日（火） 審議（第 6 回免許及び資格課程運営委員会）

Ⅴ 現況基礎データ一覧

令和7年5月1日現在

法人名	
獨協学園 獨協大学	
学部名	
・外国語学部（ドイツ語学科、英語学科、フランス語学科、交流文化学科） ・国際教養学部（言語文化学科） ・経済学部（経済学科、経営学科、国際環境経済学科） ・法学部（法律学科、国際関係法学科、総合政策学科）	
Ⅰ 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等（3月卒業のみ）	
① 昨年度卒業者数	1,734 名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む、大学院等進学者を除く)	1,527 名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)	72名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	18名
⑤ のうち、正規採用者数	11名
④ のうち、臨時的任用者数	7名

2 教員組織						
	教授	准教授	講師	助教	特任	その他 (非常勤講師)
教員数	135 名	34名	17名	0 名	23名	411名
相談員・支援員など専門職員数				3 名(非専任職員)		

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 獨協大学.“学生データ(入学者の数、収容定員、在学生数、卒業・修了生数、進学および就職等の状況)”.獨協大学ホームページ.

<https://www.dokkyo.ac.jp/about/openinfo/activity2/165.html>